

◆第1回(7/25)

現地調査(夏期)実施計画、現地実証実験(冬期)事前準備の確認

夏期において、吸引計画地点における吸引特性把握を目的として砂利採取船(ポンプ浚渫)を用いて行う調査の実施計画について確認を行った。また、水頭差を利用した吸引工法について、矢作ダムへの適用性確認、設計に際して必要となる諸定数の推定を目的として冬期において貯砂ダム地点で行う現地実証実験の事前準備状況の確認を行った。

夏期現地調査:8/22,8/24に現地視察を実施

◆第2回(11/20)

現地調査(夏期)結果報告、現地実証実験(冬期)の準備状況の確認

現地調査で得られた堆砂面形状、塵芥の影響、吸引特性等について報告するとともに、現地実証実験(冬期)の準備状況の確認を行った。

冬期現地実証実験:12/11,12/25,1/8に現地視察を実施

◆第3回(3/4)

1. 現地実証実験の結果の報告

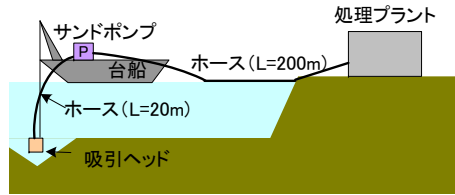
実証実験の結果、効率的に排砂するためには、堆砂中の礫による吸引阻害を回避するとともに、土砂吸引濃度を最適な値に維持するため、吸引口を最適な位置に移動させたり、補助動力により湖底の砂を攪拌するなどの、きめ細やかな操作が必要であることがわかった。

2. 矢作ダムの排砂工法について

堆砂肩付近で掘削する等の自然現象のプロセスを重視しつつ、平常時に掘削した土砂を、一旦ストックした上で、洪水時にこれを下流河道に流下させる、「ストックヤードを利用した2段階方式による排砂工法」を含め、排砂方法について引き続き具体的に検討することとした。

◆夏期現地調査

＜施設の概要＞



＜土砂吸引時の湖面状況(気泡が上昇)＞



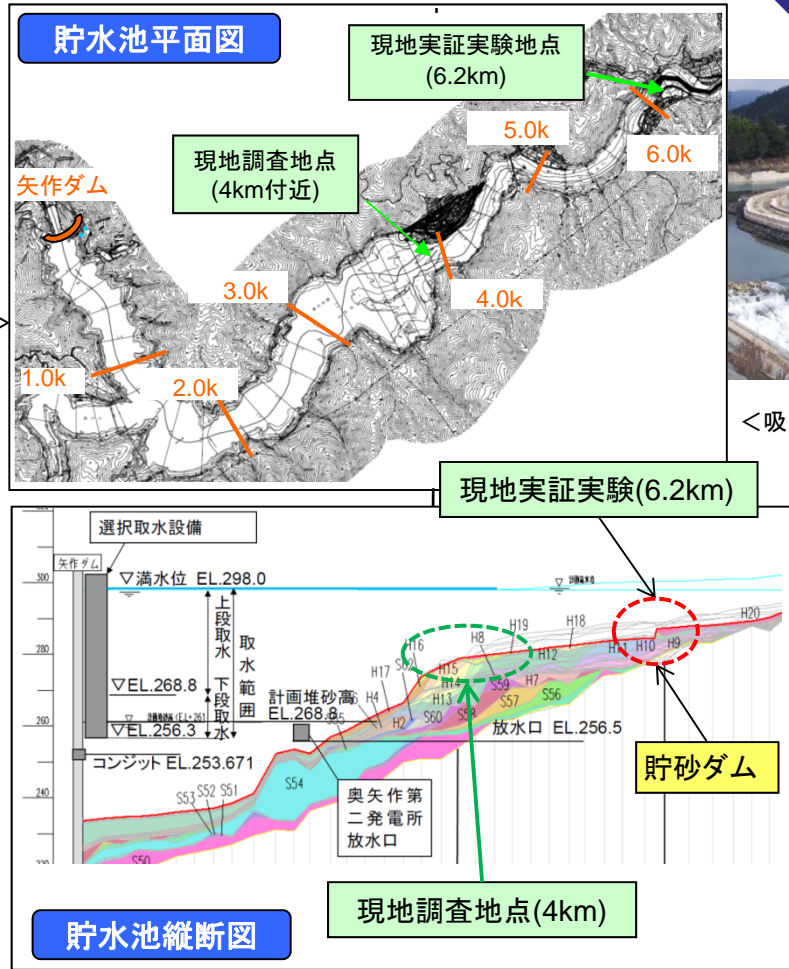
＜土砂濃度15.6%時(最大時)プラント＞



＜吸引部引揚げ後の塵芥付着状況＞



＜周辺河床の状況(貯水位低下時)＞



◆冬期現地実証実験

＜施設の全景＞



＜吸引側＞



＜吐口部＞



＜施設の概要＞

